SDGsへの取り組み

2030年までの世界のマスタープランともいえる持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）。ICTはその特性から17の目標すべてにポジティブな影響を与える可能性を有します。富士通グループは、独自のICTの力を活かして、より事業への結びつきが強い目標を中心にSDGsの達成に向けた取り組みを進めています。

SDGsの達成に向けて

SDGsの理解と活用

2015年に国連で採択されたSDGsは、先進国を含めた世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標であり、その目標達成に向けては、民間企業の技術やイノベーション力を積極的に役立てていくことが強く求められています。

富士通グループは、グローバルICT企業として常に技術革新に取り組み、それを人の幸せにつなげることを目指しています。しかし、より一層大きな視点で自分たちの技術をどのように世の中に適応させていくかを考えるときに大きな指針となるのが、これからの世界の共通言語である「SDGs」だと認識しています。

そのため、富士通グループはSDGsへの取り組みを国際機関や各国政府、民間企業、NGOといった他組織との幅広い協働の機会と捉えています。成長戦略である「つながるサービス」実現のためのエコシステムの要素の1つとしてSDGsを位置付け、社会課題の解決を事業における新たなビジネスチャンスと認識し、多くのパートナーとの協働を通じて多面的にアプローチすることで、より大きな規模での社会価値の創造とその最大化を図ります。あわせて、国際社会共通の目標と富士通が果たすべき役割を重ね合わせて考えることで、既存のやり方にとらわれず自らの経営やビジネスを柔軟に変容していきます。このように、社会からの期待と要請に応えて自らを見つめ直し、持続的に成長していくための経営戦略のツールとして、SDGsを積極的に活用していきます。

富士通のビジネスモデルは、「ICT基盤をはじめとする様々な技術の提供を通して、お客様にイノベーションを創出し社会の発展に貢献する。さらには、お客様や社会の成長を起点に、様々な資源を再投資する好循環を作り出し、自らも持続的に成長する」ことです。本格的にSDGsの達成に貢献するためには、このビジネスモデルにSDGsの要素を組み入れられるかどうかが鍵になります。

そのための第一歩として、17の目標と自社事業、外部環境を照らし合わせて戦略的に取り組むべき目標を抽出しました。事業の中心であるデジタル技術を活用することでより大きな価値をもたらすことができる分野として、富士通グループはSDGsの目標2、3、9、11に注力して、ビジネスを進めていきます。

推進体制

SDGsへの取り組みをより大きな規模での価値創造と自らのビジネスの変革に確実に結び付けていくために、富士通では、コーポレート部門・営業部門・事業部門の各役員を含むメンバーを中心に、富士通研究所や富士通総研などの関連部門も一体となった全社横断プロジェクトを推進しています。コーポレート部門は主に持続可能性や社会的責任の視点、営業部門はビジネス化の視点、事業部門はソリューションの視点から、社会課題解決を起点とするビジネスの検証と推進を連携して行い、社会価値と経済価値の共創という新たな形に結び付けていきます。

SDGs浸透に向けた活動

社外向けの取り組み

富士通フォーラムでのSDGsカンファレンス

お客様や社会を支える最新の取り組みと技術を紹介する富士通最大のイベント「富士通フォーラム2017」で、SDGsカンファレンスを開催。日本企業が国際社会の一員としてSDGsを達成し、自らも持続的に成長していくためには何が必要か、有識者の方々と議論を行いました。

各社が持つ技術をSDGs達成に活かすためには、画期的なイノベーションに対して法規制など既存の枠組みに縛られない対応が必要であること、また、社会課題に対してより大きなインパクトをもたらすために、従来の発想を超えた大きなパートナーシップが必要になることを確認しました。

なお、各有識者のご発言詳細など当日の様子は、下記URLよりご覧いただけます。
http://journal.jp.fujitsu.com/2017/08/25/01/

「富士通フォーラム2017」でのSDGsカンファレンス

WBCSDとの意見交換

WBCSD（The World Business Council for Sustainable Development）のマネージングディレクターであるフィリッポ・ベグリオ氏と、ソーシャルインパクトマネージャーのジェームズ・ゴム氏を招き、「SDGsへの貢献に向けて富士通が取り組むべきポイント」というテーマで議論を行いました。SDGsは自らの革新のツールとして、また、異業種企業が同じ目標に向かってパートナーシップを生み出すツールとして活用できるため、ビジネスにスケールとインパクトをもたらすことが可能であり、富士通として取り組む分野を検討し、具体的な活動に落とし込んでいくように、というアドバイスをいただきました。

意見交換会でのディスカッション

社内への浸透策

社内セミナー「SDGsを知る」

富士通では、SDGsを社員一人ひとりが理解・実践していくことを目的に社内セミナーを開催し、元NHKキャスターの国谷裕子氏より「SDGsの重要性」、株式会社大和総研主席研究員の河口真理子氏より「SDGsに関する企業動向」についてご講演いただきました。

国谷氏は、SDGs策定の背景やその内容、問題を直視した対策実行の重要性に加え、欧州での食品廃棄規制の効果や、食品廃棄の削減が温室効果ガス削減にもつながるといったSDGsの各目標の「相互関連性」に言及されました。

河口氏は、SDGsの達成に向けては「あるべき姿」から落とし込んで何をやるべきか考える「バックキャスト」と、社内事情ではなく社外のステークホルダーの視点で何ができるか検討する「アウトサイド・イン」という2つの発想が不可欠であり、SDGsへの適切な対応は今後の企業競争力の鍵になる、と話されました。これらのお話を踏まえ、富士通はSDGsを事業戦略に取り込んでいくよう検討していきます。

富士通のSDGsへの考え方は「ICTで取り組むSDGs」という動画でご紹介しています。
https://www.youtube.com/watch?v=Cv9tGB7qJ_I&feature=youtu.be

国谷裕子氏

河口真理子氏

グローバルリーダー育成研修でのSDGs講義

2017年3月期より富士通グループのグローバルリーダー育成研修の一部として、SDGsの説明とその取り組みの重要性について社内外より講師を招いた講義を行っています。また、研修課題である新規ビジネス検討に際し、SDGs達成への貢献を視野に入れた検討を促進しています。なお、本講義は2017年8月までに富士通グループ内約230人が受講しました。

研修での講義の様子